

## 国外研究成果報告書

### 1. 研究課題

気候変動によるポリネシア島嶼社会の変容・再編をめぐる人類学的研究

### 2. 研究場所および日程

フナフチ・コミュニティ (2025年4月15日～5月5日、8月15日～18日、11月30日～2026年1月19日、2月20日～3月2日)  
ナヌメア・コミュニティ (2025年5月6日～8月14日)  
ヌクフェタウ・コミュニティ (2025年8月19日～10月24日)  
バイツプ・コミュニティ (2025年10月25日～11月29日)

### 3. 研究活動概略

本研究は気候変動によるポリネシア島嶼社会の変容・再編の過程を人類学的に明らかにすべく、ツバルにて研究に従事した。ツバルをはじめとするポリネシア島嶼社会は近年、世界的な気候の変動に伴い、海岸侵食、高潮、塩害などの影響が深刻化するなど、大きく変容しつつある。ツバルにおいて特徴的なのは、適応策として実施される護岸工事や、海浜の人工的な拡張・造成などによって島景観が一新されている点である。本研究ではこうした島景観の変化を、自然と社会の連関の現代的な再編としてとらえ、その過程を臨地調査で具体的に明らかにした。

フナフチ環礁において所属先である南太平洋大学ツバルキャンパスの図書館、国立古文書館、政府統計局やメディア局などで資料を収集するなど、文献調査に従事した。また、所属先の南太平洋大学のオリコニ・タナキ博士と意見交換、ツバル政府環境省気候変動担当者、現地 NGO Live & Learn のツバル代表のテウレアラ・モレシ氏らと意見交換を行った。また、フナフチ環礁における臨地調査として、インタビューや参与観察を行い、変化する景観の中で彼らがいかに暮らしているのかについて明らかにし、それを日々の景観実践として特徴づけた。さらに、首都のフナフチ環礁を起点にしつつも、離島のナヌメア環礁、ヌクフェタウ環礁、バイツプ島においても臨地調査を実施した。いずれもツバル内の環礁ではあるが、島の面積や形状が大きく異なるだけでなく、生業の状況や社会構造なども異なり、住民の視点から気候変動による自然と社会の連関の再編を立体的に明らかにすることができた。